

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	コンビニ（総務）	販売量の動き	・3か月前は、売上が前年比で100%を下回っていたが、今月は100%を上回った。来客数、客単価共に、若干回復傾向である。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・工事特需の影響で、今月は来客数、売上共に増加し、順調な年始のスタートとなった。この工事関係の特需が2月初旬までとみられるため、動向を注視していく。
	○	家電量販店（店員）	来客数の動き	・初売りや新生活準備のため、来客数が増加するとともに、ついで買い等も多かった。
	○	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・1月は寒さが強まったことから、暖房商品の販売が好調で、来客数は前年比107%となり、来客数、客単価共に前年を上回った。主要大型商品の売上も増加している。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算時期であり、新型車の販売も好調であった。
	○	その他小売 [ショッピングセンター]（館長）	来客数の動き	・前年の全国旅行支援の影響が少なくなってきたなかで、土産店、飲食店の来客数が大きく増加した。アジアからの直行便も就航し、インバウンドも増加している。
	○	その他飲食 [ファーストフード]（経営者）	販売量の動き	・売上は総じて良くなっている。
	○	旅行代理店（部長）	お客様の様子	・瀬戸内国際芸術祭、大阪・関西万博などのイベント効果による景況感の好転がみられる。
	○	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・物価は上昇し続けているなか、給料の上昇が追い付いておらず、生活余裕資金は減少している。しかし、景気が回復傾向であるためか、売上は増加している。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・地元の一般消費者は、日々の生活のなかで終わることのない物価高を感じており、所得は僅かに増えそうだが、支出の増加には追い付かない感覚もあり、毎日不安を抱えて生活している。現実的には、富裕層、インバウンド及び観光客の消費に期待するしかない。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・新首相の言う地方の創生については、様々な角度からの方策があるとみているが、現状の延長線上にある大都市中心の考えから、1日でも早く地方再生に目を向ける必要がある。
	□	一般小売店 [文具店]（経営者）	販売量の動き	・受注量や販売量は変化がないが、受注価格や販売価格は変化がみられる。ガソリン価格が上昇した影響で、仕入れに係る運賃が上昇しており、今後が心配である。
	□	一般小売店 [生花]（経営者）	それ以外	・インターネットでの注文は増加しているが、来客数は年明けから極端に減少している。年末年始の街のにぎわいは昨シーズンより弱くなっている。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・客単価は上昇しているが、来客数や買上点数が減少している。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・12月、1月商戦共に、堅調に推移しており、人の移動などは関係なく消費が動いており、年末年始の需要はしっかりとあった。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・3か月前と比較して、大きく好転していない。
	□	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・年末年始は帰省客も多く、年始は好調だったものの、正月休み以降は節約志向のため、販売量が減少している。
	□	スーパー（統括担当）	単価の動き	・物価高により単価が上昇し、客が減少している傾向に変わりはない。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年より、来客数と買上点数が減少している。来店しなくなった客に加え、来店しているが購入量を減少させた客がいる。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・米、鶏肉、卵の価格の上昇により、原材料価格の高騰が続いている。

	□	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・今月はバーゲンセールの実施月であり、本来は売上が非常に増加する月であった。しかしながら、前半は非常に快調だったものの、後半が相当厳しい状態になり、トータルでは余り変わらない結果であった。
	□	衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・売上は前年と同水準で推移しており、前月と比較して、やや回復傾向であった。しかしながら、依然として顧客の購買意欲は低く、客単価がなかなか上昇していない。
	□	乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・以前から変わらず、長納期でオーダーストップとなる車が多い。
	□	乗用車販売店 (役員)	お客様の様子	・客の購買意欲に大きな変化はない。
	□	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・当地域発着の海外直行便も増加しており、インバウンド需要が好調を維持している。
	□	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・基本食材の価格や燃料価格が上昇しているなか、インフルエンザなどの流行もあって、人の動きが活発ではない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比較して、売上は同水準である。また、客からは、物価上昇により小遣い額が減少したという声が多数あった。また、12月に多く消費したことによる反動で、人の動きは少なかった。
	□	観光遊園地(主幹)	来客数の動き	・3か月前とほとんど変わらない水準で、来場者が推移している。
	□	設計事務所(所長)	販売量の動き	・新規設備投資の計画依頼は、従来と同様に入ってきている。
	▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・現在でも燃料価格の高騰で大変な状況のなか、燃料の補助金支給が終了することで、更なる燃料価格の高騰が続く。原材料費の高騰も依然として継続していることから、客の懐事情も厳しい状況になっていくとみられる。
	▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・寒い気候も一因ではあるが、平日の昼や夕方の来街客数が極端に少なく、買物をする状況ではないという消費者心理になっている。
	▲	一般小売店〔書籍〕 (営業担当)	販売量の動き	・前半は、年末年始の9連休があり、新刊等の商品が入手できないこともあり、苦戦を強いられたものの、後半は外商売が増加し、前年比で若干のマイナスに抑制することができた。
	▲	百貨店(マネージャー)	販売量の動き	・インバウンドは好調に推移しているが、国内客は原材料価格やエネルギー価格の高騰により、必要な物を必要な量しか購入しない。
	▲	スーパー(店長)	販売量の動き	・商品価格の高騰が続いている影響で、販売数量が減少傾向である。
	▲	美容室(経営者)	来客数の動き	・12月に売上が増加する反動で、1月や2月は減少する。
	▲	美容室(経営者)	お客様の様子	・ホームカラーなど自分で済ませる客が増加した。
	×	一般小売店〔酒〕 (経営者)	お客様の様子	・物価や光熱費の高騰で消費者の財布のひもが固く、飲食店や家庭向けの納品も減少している。
	×	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・衣料品販売では、従来1月は来客数がかなり多かったが、前年からは減少しており、かなり少なくなった。物価高のため、衣料品は低価格品を選択する客が増加している。
	×	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・客数、客単価共に悪化している。休業日を増やすといった営業日の見直しが必要になり、経費の削減を考えなければならないレベルである。
企業 動向 関連 (四国)	◎	*	*	*
	○	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・全国の取引先である小売店からの受注は、消費者の節約志向の影響で前年と比較して減少または前年並みの所が多いが、インバウンド需要がある地域の小売店からは、依然として受注が旺盛である。
	○	電気機械器具製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・竹の資源の動向をみると景気は上向いており、新しい農業や工業が始まっていくとみられる。
	○	通信業(企画・売上管理)	受注量や販売量の動き	・特に、東京や大阪に本社を置くスポンサーの発注が多い。

	□	化学工業（所長）	取引先の様子	・原材料価格の高騰により製品単価が上昇するなか、出荷数量が減少しており、取引額は増加しない状況が続いている。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船以外の産業用機械の受注が依然として少ない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現状では、公共、民間事業とも先行きが不透明である。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先行きが不透明であり、分からない。
	□	通信会社（総務担当）	それ以外	・ボランティアや地域のイベントといった社外イベントへの参加者数が増加しており、関係者の人の流れも、やや増加していたが、直近では大きな変動はない。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・3か月前と比較して、大きな変動はない。
	▲	農林水産業（職員）	それ以外	・燃油価格の上昇は、地域経済に与える影響が大きい。地方の交通手段は自動車に頼っていると同時に、1次産業は暖房を重油に頼っている。ガソリン減税の実施時期が先送りされているなか、燃油依存度の高い地方において、1リットルあたり200円に迫るガソリン価格は消費を一段と冷え込ませている。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が大幅に減少している。職人不足による現場の進捗遅れの影響が出ている。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・物価高騰による経費の増加や売上単価の上昇が見込めない状況によって、利益が圧迫されているところが増加している。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(四国)	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者の動きが依然として鈍い。
	□	職業安定所（求人開発）	それ以外	・新規求人数、新規求職者数共に前年比が同程度であるため、3か月前の前年比と余り変わらない。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・職種によってばらつきはあるが、各企業の求人募集の動きに大きな変化はない。
	▲	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・特に、県内の中小企業では、中途及び新卒とも採用に苦戦している状況が続いている。新卒の不足を途中で、中途の不足を新卒でと相互に補完してきたが、現在はいずれも苦戦している。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・一般企業からの純広告の受注が低調である。
	×	—	—	—